

1 学校教育目標
「県立高等学校における教育指導の重点」及び「人権教育取組の方向」等を基盤に据え、本校の三綱領「正大・剛健・寛厚」のもと、生きる力の育成を通して、求めて学び志を成す「地球（知究）市民」の育成と活気溢れる学校づくりを目指し、次の5項目を目標とする。

2 本年度の重点目標
(1) 人権尊重の精神の涵養と基本的生活習慣の確立に努め、豊かな人間性の育成を図る。 (2) SDGsの視点を持ち、主体的・継続的に学びに取り組む態度を養い、生涯学習の基盤を培う。 (3) 生徒個々が生涯の中で果たすべき役割や価値を見出すキャリア教育を推進する。 (4) 体力の向上、心身の健康の保持増進、及び安全教育の充実を図る。 (5) ワークライフバランスを意識した学校における「働き方改革」を推進する。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学 校 経 営	開かれた学校づくり	公開授業の推進	・保護者や地域の方々の方々の本校教育活動への理解と関心の向上	・探究場面を取り入れた授業研究を推進し、年間2回の公開授業週間を実施する。 ・保護者、近隣小・中学校、県立高校へ案内し、来校者を昨年度より増加させ、地域との連携を深める。	B	【○】公開授業週間は、7月と10月の2回実施することができた。また、公開授業週間に併せて、授業改善に係る学力向上職員研修を実施し、職員の教育活動に関する共通理解やチーム学校としての連帯感を高めることができた。 【○】昨年度よりも保護者の参加が45名から12名に減少したものの、昨年度は参加のなかった中学校教諭や支援学校教諭等の参加が8名あり、地域との連携を深めることができた。
		広報活動の充実	・効果的な広報活動による入学志願者の増加 ・SSH活動の普及と浸透を図る。	・夏季休業中に体験入学及び中学校関係者・保護者説明会を実施し、学校の特色が伝わる内容を企画する。 ・天高地域新聞を作成し、中学校に配布する。 ・学校紹介ムービー等を活用して広報活動を行う。 ・学校HPを充実させるために、イベントごとに担当者が記事を作成し、更新頻度を高める。 ・生徒の研究内容を地域に発信する場を年2回以上設ける。	A	【○】8月2日に予定していた体験入学は、コロナ感染拡大のため中止となった。生徒・保護者を含め350名以上の参加希望があった。代替として、本校HPに令和4年度版の「Web体験入学」コーナーを作成し、本校希望者の増加に繋げることができた。 【○】地域新聞を2回発行し天草地区の中学3年生へ広報活動を行った。第3回は2年生を対象に3月の発行を予定している。 【○】中学3年生及び保護者向けの説明会を11月18日に実施した。学校紹介ムービー等を活用し、魅力を紹介することができた。 【○】天草地区20の中学校での高校説明会で、約1500名の生徒に本校のPRを行った。 【○】HP作成担当者を複数配置して週に1回以上HPの更新を行い、SSH活動等を発信することができた。 【○】「ARP探究成果発表会」及び「環境シンポジウム」を開催し、SDGsに関する研究発表等を天草市民センターで開催し、地域に発信することができた。
		育友会との連携	・育友会総会や地区別懇談会、学級懇談会の充実 ・学校行事、諸行事への保護者の積極的な参加	・進路講演会等の行事において、職員と保護者の情報交換の機会を設けるなど工夫を凝らす。 ・総務部及び各学年の協力のもと、育友会が主体的にオンライン会議等を実施する。 ・メール配信サービスの利用と学校HPを活用して、参加可能な学校行事への積極的な参加を促す。	B	【○】進路講演会及び学年別保護者会は、感染対策を強化して実施できた。学年と保護者が連携し、コース選択の説明や進路情報の提供等、保護者の要望に添った内容になるよう工夫することができた。 【○】育友会総会は中止となり、インターネットによる書面表決となった。育友会役員等の協力で各種委員会や毎月の役員会を実施し、制限された中でも育友会活動を充実させることができた。 【○】体育大会やマラソン大会など、保護者参加が必要となる学校行事については、メール配信を利用して参加の呼びかけを行ったり、育友会役員等と連携して保護者へ連絡を取ったりするなど、積極的な参加を促すことができた。
		特色ある学校づくり	SSHの推進と科学技術人材の育成	・全校体制で、地域課題解決に必要な5つの力の育成 ・評価方法の研究	・職員研修を年間で6回以上実施し、全職員でSSH事業について共通理解を図る。 ・教務部、授業改善プロジェクトリーダー、進路指導部と協働する。 ・通常授業に13の探究の場面を設定して5つの力の育成を目指す「天高版探究型授業」を全職員で実施する。 ・AS評価基準表による評価を	B

		<p>究を推進する</p> <p>・主体的な生徒の研究活動の推進</p>	<p>年2回実施し、指導の検証及び改善を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A S 及び A T は総括的評価（全生徒の平均値2.8/4以上）を設定し、達成のための支援を行う。 ・ 5つの力の伸長を客観的に評価する「評価テスト」を作成する。 ・ A S 及び A T 担当職員は、「指導」でなく「支援」に徹する。 ・ 毎回の A S や A T の冒頭に生徒と担当者とのディスカッションを設定し、生徒が主体的かつ数か月先までの見通しを持って活動できるように支援する場とする。 <p>※ A S : 自然科学の手法で地域課題解決を目指す課題研究を実施する授業である「天草サイエンス」の略語（1年生全員および2、3年理系 A S が履修）。</p> <p>※ A T : S D G s の視点から地域課題解決を目指す課題研究を実施する「天草探究」の略語（2、3年文系および理系（A S 以外）が履修）。</p>		<p>び研究授業等で探究型授業の実践を行い、外部にも発信することができた。</p> <p>【△】各学年で仮評価と本評価を実施し、評価の研究を行うことで探究活動の充実に繋げることができた。今後は、評価結果をいかに学習指導の改善へ活用していくかが課題である。</p> <p>【△】12月の自己評価結果より、A S II・IIIでは目標値を達成できた。しかし、A S Iでは2.3となり達成できなかった。3学期に個別指導の充実に図り、生徒への支援の工夫、改善を行った。</p> <p>【○】5つの力のうち、3つの力については評価テストを作成し、実施することで評価の充実に繋げることができた。そのうち1つについては、A S クラス3年生に実施し、生徒の変容を測ることができた。</p> <p>【△】多くの先生が生徒主体の取組になるような支援を徹底できた。しかし、一部で研究内容を担当者が主導する場面が見られたことが課題として残った。</p> <p>【△】授業冒頭のディスカッションは定着したが、担当者から見通しを持たせる支援が難しいとの意見があった。班長会議等を充実させることで、生徒が見通しを持って活動できるように工夫するなど改善を図った。</p>
	安全管理の取組	不祥事防止	<p>・不祥事防止に向けて全職員で主体的に取り組む雰囲気の醸成</p>		<p>【○】不祥事防止に係る職員研修を、ウェブ研修を含め計4回実施した。ポトムアップ形式の研修になるよう工夫し、職員の問題意識や危機管理意識を高めることができた。</p> <p>【○】不祥事防止に係る資料を定期的に提供できた。その際、全職員に資料の電子データを共有できるようにした。</p>
	業務改善及び働き方改革	業務の精選と効率化	<p>・超過勤務時間の短縮と年休等の取得率の向上</p>		<p>【△】学期ごとに各分掌の業務削減について点検を行った。朝課外の廃止は超過勤務の削減につながったが、端末の活用や学習評価等の負担が増加したことが課題である。</p> <p>【○】学校HPに練習計画を公開するよう徹底した。部活動指導員を1名増員し、該当部活動の顧問の超過勤務時間の削減ができた。</p> <p>【○】年休取得等の働き方改革に関する目標を業績評価の項目に入れるよう促した結果、職員平均10.4日の年休取得ができた。夏季特別休暇も全員取得することができた。</p>
学 力 向 上	学力の充実	家庭学習習慣の確立	<p>・計画立案と振り返りによる自己管理意識の醸成</p>		<p>【○】6月と10月に宅習時間調査を実施し、個人面談等に活用することができた。</p> <p>【○】スタディ・プラスを利用した家庭学習の状況調査を定期的に実施することで、教科や曜日毎の学習時間の詳細なデータ分析が可能となった。また、スタディ・サプリを利用することで、夏季休業中の課題と2学期課題考査の業務削減につながった。</p>
		3年間を見通した指導計画	<p>・シラバスによる見通しを立てた指導</p> <p>・各部会及び学年会による職員の情報の共有及び連携</p>		<p>【○】年度当初にシラバスを作成し生徒へ配付した。特に、1学年については観別学習評価についての資料を作成し、生徒に説明することで指導と評価の一体化に繋げることができた。</p> <p>【△】各教科が作成したシラバスに書かれた授業ごとの探究場面をもとに単元配列表を作成し、研修等で周知した。具体的な授業内容の把握が不十分であったため、単元配列表をいかに教科横断的な指導の充実に繋げていくかが課題として残った。今後、S H 研究部で単元配列表の在り方について再度検討し、カリキュラム・マネジメントへの活用を目指す。</p>
		習熟度別学習の実施	<p>・それぞれの学習到達度に応じた指導</p>		<p>【○】習熟度別にクラスを展開している教科では、定期考査・模試等の結果を受けて定期的にクラスを再編成しており、生徒の実態に応じた授業が展開できた。</p> <p>【○】1学期に、1学年の生徒31名を対象に中学校の学習内容の学び直しを行い、学力保障に繋げた。学習会の外部講師は、退職校長会から推薦を受けて選出し、職員の負担軽減も図ることができた。</p>
	教員の指導力の向上	学習指導法の工夫・改善	<p>・授業力の向上</p> <p>・作問力の向上</p>		<p>【△】スーパーティーチャーを招いた授業力向上に係る職員研修を実施した。研究授業の実施数は目標に到達しておらず、職員の授業改善に対する意識を、昨年度以上に高めることはできなかった。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・大学入試問題の分析力と模試結果分析力の向上 ・授業評価による振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・や先進校視察、予備校研修を実施する。 ・九州大学、熊本大学、熊本県立大等の入試問題分析を各教科で実施し、受験指導に活用する。 ・模試分析を1・2年生は7・11・1月進研模試、3年生は4・6・7・9月進研模試・ベネッセ駿台模試について各教科会を実施し、生徒の学力の状況と改善策の検討を行う。 ・1・2学期末に生徒による授業評価を実施し、授業改善に役立てる。 		<p>【△】先進校視察については実施できなかった。予備校研修参加者も1名であったため、今後、研修の参加を促す工夫が必要である。</p> <p>【○】大学入学共通テストや大学個別試験の問題分析、模試分析を各教科で実施し、各教科の指導力向上を図ることができた。また、生徒の状況を共有し、3年間を見通した指導についての共通理解を図ることができた。</p> <p>【○】各教科会の中で、定期的に授業の質の向上のための協議や考査問題検討、および今後の指導方針や新しい学習評価等についての意見交換を行うことができた。</p> <p>【○】1学期末および2学期末に全生徒を対象に授業評価アンケートを実施し、授業改善に活用することができた。</p>
<p style="text-align: center;">キャリア教育・進路指導</p>	<p>3か年の一貫した指導のもとでの進路目標の達成</p> <p>生涯学習の基盤づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「雛鵬プラン」の進路指導スケジュールに基づく系統的指導 ・振り返りによる自己管理意識の醸成 ・個別指導体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・「雛鵬プラン」に沿って、自らの進路目標や学習の状況に応じて主体的、計画的に学習する基礎力を養成する。 ・「手帳（Foresight）」を利用して、宅習・生活の計画と記録を記入させ、振り返ることで自己管理を促す。 ・「キャリアパスポート」を活用して各学期の目標設定と振り返りを実施する。 ・「スタディ・サブリ」や「スタディ・プラス」、課外授業、添削等を利用し、生徒が学力や目標に応じた学びを主体的に行うための体制を整備する。 	<p style="text-align: center;">A</p>	<p>【○】「雛鵬プラン」を各学年で積極的に活用することで、職員の共通理解を図りながら、年間を通して計画的な進路学習の実施に繋げることができた。</p> <p>【○】手帳の利用については、初期指導及び継続的な利用を促す働きかけを行い、3年次には先を見通して計画的にスケジュール管理ができる生徒が半数を超えるなど、一定の成果が得られた。</p> <p>【△】キャリアパスポートを活用して学期ごとの振り返りはできたが、年間を通じての活用はまだ十分ではなく、工夫が必要である。</p> <p>【○】スタディ・サブリを用いて、生徒自身が学力や志望に応じた学習の振り返りや授業の学び直しなどを行利用に関しての研修を行った。その後の運用についても継続的に行うことができた。</p>
	<p>探究活動の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外部機関との連携の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生に対して「天草学連続講義」を実施し、5人以上の地域の行政・企業・研究者から地域の現状を学び、生徒が自分にできる貢献を考える場を提供する。 ・1年生対象の「SSH熊本大学研修」を実施し7学部以上の専門家からの講義を受け、自身の進路を考える際の一助となる場を設定する。 ・2年生ASクラスにおいて国内研修を2回以上実施し、研究機関で体験の機会を設ける。 ・全学年対象に7月と3月に実施する「ARP探究成果発表会」に地域の方々を招待し、地域への貢献について議論する場を提供する。 ・天草市と共催で「環境シンポジウム」を実施し研究成果を根拠とした地域貢献実行の場を設定する。 ※ASクラス：自然科学の課題研究や関連する研修を実施する天草サイエンスクラスの略語（2、3年理系に設置）。 ※ARP：天高版科学技術人材に必要な5つの力（問いを立てる力、情報を収集する力、情報を分析する力、対話する力、創造する力）を育成するために、課題研究を含む全ての教科・科目及びあらゆる教育活動に探究の場面を設定する天草探究プロセスの略語。 	<p style="text-align: center;">B</p>	<p>【○】天草学連続講義を8回実施することができた。講義後に生徒が設定した地域課題の解決を目指した研究テーマの中には講義を参考にしたものもあり、探究活動の充実につながった。</p> <p>【○】「SSH熊本大学研修」では、7学部（文・教育・法・理・工・医・薬）に加えて、合津マリンステーションでも研修が実施できた。進路意識の向上が研修後の生徒の感想から読み取れるなど、目的を達成することができた。</p> <p>【○】8月に2泊3日の「SSH熊本研修」と日帰りの「SSH京都大学施設研修」を実施し、生徒に研究機関での体験の場を提供できた。この研修での学びを生かして、生徒たちは課題研究でのデータの収集・分析や成果発信に改善を行うことができた。</p> <p>【△】7月の「ARP探究成果発表会」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外部関係者等の招待はできなかった。オンラインで地域に研究成果を発信したが、地域との連携に課題が残った。</p> <p>【△】8月に「環境シンポジウム」を実施できた。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、午前中のみ開催とした結果、地域貢献実行の場（アマモの定植体験会）を設定することができなかった。次年度に完全実施ができるよう、天草市役所と連携しながら準備を進めたい。</p>
<p>多様化する生徒の個々の進路目標への対応</p>	<p>進路意識の高揚・啓発</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路情報の提供 ・進路講演会、大学出張講義などのガイダンス機能の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導の手引き「求学志成」や「雛鵬プランカレンダー」を作成し、具体的な行事や取組を提示し、見通しをもって進路指導を行う。 ・進路情報誌（月刊誌・増刊号）を各クラスに配付し、大学選びや学習プラン作成などの受験情報に対する意識を高める。 ・各学年で時期や生徒の発達段階とニーズにあった内容の講演会を実施する。 	<p style="text-align: center;">A</p>	<p>【○】進路指導の手引き「求学志成」、「雛鵬プランカレンダー」を作成し、年度当初に全生徒に配付し、進路学習等での積極的活用により進路意識の高揚を図ることができた。</p> <p>【○】多様な進路希望に対応するよう、必要に応じて進路情報誌等の配布をクラスや生徒行い、個に応じた進路指導の工夫を行うことができた。</p> <p>【○】各学年の進路講演会で、進路指導部から学年の現状や今後の指導についての情報提供を行い、生徒や保護者の進路意識の啓発を図ることができた。</p>

		進路希望に応じた個人指導	<ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学進学希望生徒数の1/3以上（難関大学5名以上）合格の達成 ・大学入学共通テストでの全科目全国平均点以上の達成 ・模擬試験での3年生全科目平均偏差値50以上、1、2年生国語・数学・英語平均偏差値52以上（50以上を6割）の達成 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路検討会を年間に3年生5回、2年生2回、1年生1回以上行う。 ・Benesse highschool Onlineやkei-net等の全職員の登録を促し、職員が大学や入試変更点などの情報を主体的に取り入れる状況を作る。 ・大学入学共通テストの分析をもとに、各教科での思考力を問う問題への対策を強化する。 ・模試分析を実施し、各教科で生徒の学力の状況と改善策の検討を行う。 	B	<p>【○】各学年で計画に沿った学力検討会及び進路検討会を実施し、生徒の現状を学年と教科担当者で共有し、個別面談での進路指導に活用する流れをつくった。3年生は受験校の決定、1、2年生は進路目標決定につながった。</p> <p>【○】Benesse highschool Onlineやkei-net等にほぼ全ての教員が登録し、大学と入試に関する情報収集に努めた。生徒自身が情報収集できるようにサポートを行い、進路調べや模試の振り返りなどに活かすことができた。</p> <p>【○】各教科で入試問題や模試分析を行い、「学びの基礎診断」として模試前後の弱点補強や学習指導法の工夫・改善などに活用することができた。</p>
	高大接続改革への対応	入試制度改革への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・総合型、学校推薦型選抜入試での合格者の増加 ・調査書の生徒の主体性の評価欄の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合型、学校推薦型選抜の検証を行い、本校生徒の活動や能力を活かす受験への対策を行う。 ・受験レポートや過去問等の情報をもとに、受験指導の対策を全職員が行える体制を整備する。 ・小論文対策の系統的な指導体制を整える。 ・系統だった進路指導が行えるように、本校の「進路指導の手引き」を活用する。 	B	<p>【△】総合型選抜や学校推薦型選抜の定員増加に伴い、生徒の主体的な活動が重視されるようになったが、コロナ禍で活動が制限されたため、リモート講演会やWEB研修等への参加を促し、生徒自身の視野の拡大と生徒の進路に対する主体性の向上に取り組んだ。しかし、今年度は、その成果が十分に現れておらず、今後は生徒の在り方、生き方の指導の更なる充実を図りたい。</p> <p>【○】受験レポートのWEB登録に伴い、全教員が志望理由書、受験レポートの閲覧を可能とし、進路指導の充実につなげた。また、各学年で「進路指導の手引き」を用いた面談を実施するなど、系統的な指導を意識した取組にすることができた。</p> <p>【○】小論文対策については、国語科の協力で教科内での文書作成能力の育成について取り組んだ。模試や講演会についても適宜実施することで、指導体制を整備することができた。</p>
生徒指導	自律心の育成	生徒会活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自らの学校生活の改善の提案 ・生徒自治を軸とした学校行事の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部が中心となって、学校生活におけるルールなどの改善点を検討し、職員会議へ提案する。また、自らが定めた規則を守ることで規範意識を高める。 ・生徒会主催で毎月生徒朝会を実施する。 ・一斉委員会で検討した内容を、生徒朝礼で取り上げ、全校生徒へ周知し自治の意識を高める。 	B	<p>【○】生徒会執行部を中心として、学校の様々なルールを見直し、職員会議へ改正案を提示することができた。</p> <p>【△】自分たちで決めたルールに対して、規範意識を持って生活できていないのが課題である。</p> <p>【○】各種委員会で話し合ったことを、生徒朝礼をとおして全校生徒に周知し、学校行事等へ向けて生徒の意識を高めることができた。</p>
		部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の効率化と部活動成績の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・各部活動で活動内容を精査し、効果的な練習に取り組む。 ・各部の目標や活動状況を踏まえ、部活動顧問の指導・助言を受けながら活動計画や練習内容を練り上げる。 	A	<p>【○】各部活動において、活動内容について生徒と顧問が活動内容を精査しながら技術の向上に努め、計画的に部活動を行うことができた。今後も天草高校部活動指針に沿った部活動運営を促したい。</p>
		ボランティア精神の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア年間参加者延べ300人の達成 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部から依頼されたボランティアに限らず、ボランティア委員会で奉仕活動を企画し、積極的に呼び掛ける。 	A	<p>【○】年間15件の校内外のボランティア活動に、延べ300名超の生徒が参加した。</p> <p>【○】本渡南小学校、本渡中学校、五和中学校で学習支援ボランティアを実施し、延べ100名超の生徒が参加した。</p>
	基本的生活習慣の確立	交通マナーとマナーの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・交通違反・事故0の達成 	<ul style="list-style-type: none"> ・学期ごとに生徒指導部を中心に登校指導を行う。 ・毎月、原付免許取得者集会を実施して、具体的な事故・違反事例を取り上げて、交通規範の高揚に努める。 ・生徒の通学状況に応じて街頭指導を行う。 	B	<p>【○】自転車利用者の交通マナー意識向上を目標に、学期ごとに街頭指導を実施した。</p> <p>【○】毎月、原付免許取得者集会を実施し、交通安全教育を行った。また、生徒の事故が発生した場合は注意喚起を含めた緊急集会を実施した。</p> <p>【△】交通マナーに関する地域からの苦情が年間通して数件見られた。その都度、全校生徒へ指導を行ったものの、まだまだ意識が低い生徒も見られ課題として残った。</p> <p>【△】年間の事故件数は15件（自転車事故8件、原付事故7件）であった。幸い、入院治療を要するような重大な事故は発生しなかったが、一歩間違えると命に関わる事故も数件見られた。特に、1学期に10件の事故が発生しており、年度当初の交通事故防止教育の充実が課題として見えた。</p>
		規範意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・セルフチェックをとおした規範意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒朝礼をとおして生徒会、生活委員会を中心とした規範意識向上の呼び掛けを行う。 ・アンケートによるセルフチェックを定期的に行う。 	B	<p>【△】整容指導を、学校全体での実施を廃止ため、学年間クラス間での指導差が生徒の規範意識の差として現れ、職員の指導観の統一が課題として見えた。</p> <p>【○】生活委員会が中心となって、規範意識の向上を目標としたセルフチェックを実施した。実施時期は改善の必要がある。</p>

人権教育の推進	命を大切にす る心を育む指 導	校内の人権教 育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 生徒、職員の 人権意識の高 揚と人権感覚 の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> 人権講演会の講師を外部へ依 頼し、新たな視点を取り入れ ることで、生徒、職員の意識 の高揚を図る。 	C	【△】講演会は新型コロナウイルス感染拡大 防止等により実施を見送った。2学年の人権 教育LHRでは、本校職員が講師となり、J I C Aの教材を用いた多文化理解、共生社会 の実現に関するワークショップを実施した。
		命を大切 にする心の 育成	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に「命を 大切にす る心」を 育むこと の重要性 について理 解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「命を大切に する心」を 育むため に、SNSの 使い方と 人権に関 する講演 会、また はLHRを 企画、実 施する。 	B	【○】思春期保健講演会を実施し、命を大切 する心の育成や人権感覚を磨く機会を設け た。
		教育相 談の充 実	<ul style="list-style-type: none"> 配慮を要する 生徒への 早期対応 と支援の 充実 	<ul style="list-style-type: none"> 学期に1回 の生徒理 解研修、 生徒支援 委員会を 実施する。 メンタル ヘルスマ ンケート を月に一 回実施し 、配慮を 要する生 徒への早 期対応と 、スクール カウンセ ラーの積 極的な活 用につな げる。 	A	【○】学期当初に計3回の生徒理解研修を 実施した。生徒状況の共通理解を図ることが できた。 【○】メンタルヘルスマンケートを実施し、 生徒理解や早期対応に活かすことができた。 カウンセリングの時間を昨年度より増やし、 ソーシャルスキルトレーニング等の継続的な 支援をすることで、生徒の不安感を軽減でき た。
		豊かな 人間性 の育成	<ul style="list-style-type: none"> 貸出冊数を 1人当 たり10冊 以上の達 成 「朝の読書」 の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 知的好奇心 や情操に 訴える資 料を選定 し、「図書 館だより 」や「新 着図書 案内」を 発行す る。 「朝の読書」 は全生徒 で一斉に 行う。 公共図書 館の蔵書 検索サイ トを案内 し、相互 貸借を行 う。また 、公共図 書館等の 利用を促 すことで 、将来的 な読書習 慣を育成 する 	B	【○】これまでに655冊図書を受け入れ、 新着図書案内を発行した。また毎月図書館だ よりを発行し、おすすめの本等を紹介した。 【○】天草市立図書館HPや熊本県立図書館 の横断検索サイトの案内を公共図書館への利 用を促した。本校に所蔵のない図書は、天草 市立図書館や近隣の高校、県立図書館等から 相互貸借を行い提供した。 【△】朝読書については、学年単位での取組 はできたが、学校全体での啓発が不足した。
		人生観 ・職業 観の育 成	<ul style="list-style-type: none"> 人生観・職 業観を養 う講演会 の実施 	<ul style="list-style-type: none"> HRでの活 動を通じ 、日常の 指導の中 で生き方 や在り方 について 考える機 会を増や す。 学問観や 職業観に 関する外 部講師に よる講演 会を実施 し、生徒 の意識の 向上を図 る。 	B	【○】毎日のSHRで、生徒の気になる行動 に対する注意喚起を学年で統一して行った。 【○】学年ごとに育友会主催の進路講演会 を実施した。また、本校卒業の大学生によるキ ャリア教育に関するオンライン講演会を実施した。
	道徳教 育の推 進	<ul style="list-style-type: none"> すべての教 育活動に おける道 徳教育の 推進 	<ul style="list-style-type: none"> 「人間とし ての在り 方生き方 」に関す る講演会 を開催す る 情報モラ ル教育を 行い、SN S等への 書き込み における モラルの 向上を図 る。 	B	【○】ホンダジェット開発者の森岡氏を招い ての特別講演会を実施することで、人間とし ての在り方生き方を考える機会を設けるこ とができた。 【○】情報モラル啓発ポスターを作成して校 内に掲示し、モラルの向上を啓発することが できた。 【○】ICT活用アンケートを学期ごとに実 施した。結果から、情報倫理の項目について 意識の向上が見られた。	
健康安全教育の推進	健康・安 全教育 の推進 と環境 整備の 推進	健康教育 の充実	<ul style="list-style-type: none"> 治療勧告 生徒の受 診率の向 上 生徒の健康 状態に応 じた個別 指導の充 実 	<ul style="list-style-type: none"> 治療率の 向上を図 るため、 勧告書の 発行の際 に治療 の必要性 が分かる 資料を作 成して渡 す。個別 指導を学 年職員や 部活動 顧問等 からも呼 びかける。 健康観察 や保健室 来室状況 等を職員 間で共有 し、心身 の不調を 早期発見 することで 個別指導 の充実を 図る。 月に一回 健康情報 の発信を 行う。 	B	【△】治療勧告書発行の回数を増やし、その 際に資料も作成して渡した。高校入試期間前 に個別指導を行うとともに、部活動顧問にも 呼びかけを行ってもらうことで、治療率の向 上に繋げたい。 【○】2学年保健委員による朝の放送、1学 年保健委員による毎月の保健便りの発行を 始め、健康意識の向上につながるような情報 を発信することができた。
		環境美 化の徹 底	<ul style="list-style-type: none"> 清掃活動 の充実 学校版環 境ISO活 動の活 性化 	<ul style="list-style-type: none"> 掃除マニ ュアルを 作成し、 担当職員 が率先垂 範して指 導を行 う。 保健部会 、生徒会 保健委員 会、生活 委員会を 中心に全 職員と全 生徒で取 り組む。 	B	【△】掃除マニュアルは検討が不十分で周知 することができなかった。掃除開始時に校歌 を流すなど、掃除への取りかかりをよくする 工夫を行いたい。 【○】学校版環境ISOについては、特に教室 移動時の消灯及び昼休憩時の職員室の消灯 による節電を徹底することができた。
		整備の 徹底	<ul style="list-style-type: none"> 安全意識 の向上 と、校内 における 事故リス クの軽減 	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検 や環境点 検に取組 み危険箇 所の改善 を迅速に 行うと ともに、 環境美化 や安全意 識の向上 を図る。 定期的な 掃除用具 点検を行 い、適切 に改善す る。 	B	【○】安全点検や環境点検を学期に1回実施 できた。 【△】生徒主体の環境美化の取組が不十分で ある。生活委員の主体的な取組を促したい。
いじめの防止等	指導体 制の組 織的整 備	組織の 実効的 活用	<ul style="list-style-type: none"> 縦(管理職 、他学年)と横(学 年団)の つながり を密接に した組織 づくり 専門的な 知識を有 する臨床 心理士を 含む「い じめ対策 拡大委員 会」の活 用 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の共有 と、迅速 な対応を 心がけて 行動する 。また、 保護者と も連絡を とり対応 の説明を 行う。 生徒指導 部会やア ンケート で得られ た情報を 共有し、 該当生徒 への事実 確認や保 護者との 連携、対 応方針の 決定を組 織的に行 う。 専門的な 知識を有 する外部 相談員に 、様々な 視点から 助言を もらい、 いじめ事 案解決に 役立てる 。 	B	【○】学年会、部会等で情報を共有し、いじ めの未然防止と早期発見ができた。また、発 生したいじめ事案については、共有した情報 をもとに「いじめ対策拡大委員会」を中心と して組織的に丁寧な対応ができた。

	未然防止及び早期発見のための取組の強化	いじめの防止	<ul style="list-style-type: none"> 互いのよさや個性が大切にされ一人ひとりが尊重される人間関係や学校風土の構築 いじめにつながりそうな雰囲気や敏感に感じ取る感性の涵養 質の高い傍観者の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会から「心のきずなを深める月間」において、いじめ防止の意識を高める呼び掛けを行う。また、他者に対してSOSを発信することの大切さを併せて伝える。 学年集会などをとおして、いじめを許さない雰囲気づくりを行い、いじめにつながるような他者の言動に気づく力をつけさせる。 ネットトラブルの現状を学び、SNSの適切な使用等を考える講演会を、1学期中に実施する。 SNS上のいじめ問題に対する生徒の感度を上げる。また、問題行動を発見した際、当事者ではない第三者としてどのように行動すべきかを考えさせる。 	A	<p>【○】「心のきずなを深める月間」において、全校生徒で心のきずなをテーマに標語を考えたり、夏休みの作文コンクールに人権をテーマにした作文を応募したりして生徒の人権意識を高めることができた。</p> <p>【○】学年集会などをとおして、SOSを発信することの大切さやそれに敏感に気付くことができることの大切さについて伝え、いじめの防止を学校全体で行っていくという雰囲気作りができた。</p> <p>【○】SNSに関するトラブルは昨年同様に発生したが、SNSが起因となる問題行動の発生件数は昨年度4件から1件へと減少した。</p>
		いじめの早期発見	<ul style="list-style-type: none"> いじめ通報アプリ等の積極的周知 	<ul style="list-style-type: none"> 学期に1度のアンケートや個人面談を行い、生徒の異変やサインを見逃さない。 いじめ通報アプリの積極的な活用を生徒に促し、自他のSOSを発信すること大切さを伝える。 2者面談で得た情報を学年会で共有する。その情報を保健部会や生徒指導部会、運営委員会でも共有する。 	B	<p>【○】いじめアンケートの実施で学校が把握をしていなかった生徒間のトラブルや悩みを早期に発見し、重大事態への発展を未然に防ぐことができた。</p> <p>【△】個人面談では出てこなかったいじめに対する訴えが、いじめアンケートでは出てくる現状から、面談スキルの向上や生徒との人間関係の構築に関して向上の余地がある。</p> <p>【○】生徒が抱える悩みやトラブルを発見した際は、事の大小に関わらず学年、生徒指導部、校務運営委員で共有し様々な視点から対応を検討することができた。</p>
			いじめへの対応	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な対応と早期の解決 	<ul style="list-style-type: none"> 「対応マニュアル」に則り、迅速な情報収集を行い事実の確認を行い、専門家も含めた組織的な対応と早期解決に務める。 被害生徒、保護者の意向を尊重しながら解決策を探る。また、いじめ事案解決後の、被害生徒、加害生徒への継続的な支援を行う。 	A
地域連携	総合型コミュニティ・スクール	地域連携の組織づくり	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営の基本方針に係る教育活動の計画等に関する協議の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会を年2回開催し、本校の教育活動について検討する。 本校の教育活動の現状を把握するため、在校生、保護者、本校職員へ学校評価アンケートを実施する。 	B	<p>【○】学校評議員会から学校運営協議会への移行を行うことができた。委員からの意見を教育活動の充実につなげることができた。</p> <p>【△】12月から1月に学校評価アンケートを実施した。保護者アンケートの回答率向上と結果の活用方法については改善の余地があった。</p>
	高校間の連携	地域への情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 天草地域の高校生連携によるPR活動の充実 ドローンを活用した学校魅力化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 地元商店街振興に向けて、各校がそれぞれの強みを活かした取組を企画・運営することで、各校の強みを地域に対して情報発信する。 ドローンの学習活動への積極的な活用を近隣校と連携して実施し、特色ある学校づくりを行う。 	B	<p>【△】天草地域4校合同での地域商店街振興事業に参加し、地域活性化と本校の魅力発信に努めた。本校は2回の参加で、目標の5回以上の参加は達成できなかった。次年度は生徒会主体での取組に変更し、活動の充実を図りたい。</p> <p>【○】新規に熊本県立高校OneTeamプロジェクト事業に参加し、地域のドローンスクールとの連携によるドローンを活用した学習活動及び講演会を実施した。近隣校との連携を深めるとともに、本校の探究活動の充実を図ることができた。</p>

4 学校関係者評価

- 学校HPの充実や地域新聞の発行など、地域に対する魅力発信は充実している。特にWeb体験入学の学校紹介ムービーは素晴らしい内容だった。
- 公開授業は周知の工夫を行い、保護者の参加を増やしてもらいたい。学校の評価は、保護者から地域に広がっていくので、学校の取組を周囲に知ってもらえる工夫をお願いしたい。
- 天草地域の中学生の3割が天草市外に進学する現状の中で、受験生が増えたことはよかった。
- 今年度から本渡中学校と五和中学校の学習支援ボランティアが実施された。今後少しずつ対象校を増やしてほしい。
- Push型の保護者メール等で早めに行事予定を知らせるなど、生徒や保護者への情報提供を充実させてほしい。
- 生徒の頑張りの裏には教師の頑張りがあり、それに伴う時間外勤務が多いことが心配である。
- 学校目標に人権尊重が掲げられているので、人権教育の充実をお願いしたい。

5 総合評価

(1) 全体について

自己評価においては、8つの大項目に対して35の具体的目標及び方策を設けて評価を行った。結果は、A評価が8(22.9%)、B評価が26(74.3%)、C評価が1(2.9%)、D評価は0であった。昨年度と比較すると、Aの割合は2.8ポイント減少し、Bの割合は5.7ポイント増加、Cの割合は2.8ポイント減少、Dの割合は同じであった。C評価の項目は、コロナ禍において計画どおりに実施できなかったことによるものである。

(2) 本年度の重点目標について

○人権尊重の精神の涵養と基本的生活習慣の確立に努め、豊かな人間性の育成を図る。

基本的生活習慣や規範意識の確立に向けた生徒主体のセルフチェック等に取り組んだ。いじめ防止については、人権意識の高揚、情報モラル教育を推進しながら、継続的に取り組み、早期発見、早期対応をすることができた。体育大会や文化祭等の学校行事では、生徒が中心となって企画運営を行うことで、自主性や社会性の育成につながった。人権教育LHRでは、人権尊重の精神の涵養を目的とした、新たな教材を用いた多様性への理解に関する人権学習を実施した。

生徒アンケート「基本的な生活習慣が身に付くように指導している」の項目では96.6%、「学校は人権を尊重した教育を行い、いじめがないように取り組んでいる」の項目では95.5%と肯定的な評価の割合が高かった。

○SDGsの視点を持ち、主体的・継続的に学びに取り組む態度を養い、生涯学習の基盤を培う。

SSH学校設定科目の「天草サイエンス」に加え、今年度から「天草探究」を設定してSDGsの視点から地域課題を解決する探究活動を実施し、問いを立てる力、情報を収集する力、情報を分析する力、対話する力、創造する力の育成を図った。併せて、全ての教科・科目で天高版探究型授業を推進し、教科横断的な視点で探究的な学びの充実に取り組んだ。また、端末を活用した主体的な学びに関する職員研修や公開授業等で研鑽を行い、教員一人一人が指導力の向上に努めた。

生徒アンケート「地域課題解決に貢献する探究活動が充実している」の項目では97.2%、「私は端末を用いた主体的・協働的な学習ができています」の項目では96.6%、「先生は適切な課題を与え、学習習慣が身に付くように指導している」の項目では96.4%と肯定的な評価の割合が高かった。

○生徒個々が生涯の中で果たすべき役割や価値を見出すキャリア教育を推進する。

キャリア教育については、本校の進路学習のガイドラインである「雛鷲プラン」を用いて、個々の進路目標に応じた計画的で細やかな指導に努めた。2学年ではインターンシップを実施し、職業観・勤労観を育む取組を充実させることができた。各学年の保護者を対象とした進路講演会や「進路指導の手引き」を活用した面談の実施など、進路指導の充実を図ることができた。キャリアパスポートについては、ポートフォリオの活用で課題が残った。朝課外を廃止したことで生徒にゆとりが生まれ、学習支援ツールを活用した主体的な学びの充実につながった。

生徒アンケート「学校は進路について丁寧な指導している」の項目では95.5%、「学校は進路希望に応じた授業展開を実施している」の項目では92.0%と肯定的な評価の割合が高かった。

○体力の向上、心身の健康の保持増進、及び安全教育の充実を図る。

3年振りにマラソン大会を実施するなど、体力の向上に努めた。また、ICTを活用した体力向上の取組が評価され、令和4年度体力向上優良校に認定された。メンタルヘルスアンケートを実施し、生徒理解や早期対応に活かすことができた。カウンセリングの時数を昨年度より増やし、ソーシャルスキルトレーニング等の継続的な支援をすることで、生徒の不安感を軽減できた。いじめアンケートの実施により、学校が把握していなかった生徒間のトラブルや悩みを早期に発見できた。また、必要に応じていじめ防止対策拡大委員会を実施することで、重大事態への発展を未然に防ぐことができた。

生徒アンケート「学校は健康で安全が学校生活に配慮している」の項目では97.7%、「私はい

つも健康・安全面に心がけており自己管理ができてい」の項目では96.4%と肯定的な割合が高かった。

○ワークライフバランスを意識した学校における「働き方改革」を推進する。

朝課外の廃止、各分掌の業務削減や効率化、ノー残業デーの実施等の「働き方改革」を推進したものの、超過勤務時間が昨年度よりも減少した月は3か月に止まった。令和4年における年間の年休取得は、平均で10.4日の取得があり、ワークライフバランスへの意識の高まりが見られた。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 学校経営

【課題】

「正大・剛健・寛厚」のもと求めて学び志を成す(求学志成)生徒の育成に向け、探究型授業及びICT活用型授業の推進を目的とした公開授業の実施、SSH活動による生徒の探究する力の育成について、今年度以上に学校全体として取り組んでいく必要がある。また、保護者アンケート「学校の教育方針や目標、スクールミッションを知っている」の項目では69.8%、「授業は工夫されていて学習意欲がわく内容であると子どもから聞いている」の項目では75.6%、「学校の保健だより・学年通信・学級通信等は学校や子どもの様子がよくわかる」の項目では72.3%と肯定的な評価が低いことから、保護者や地域からの本校の教育活動についての理解が十分に得られていないことが課題として残った。

【改善方策】

全職員がカリキュラム・マネジメントを意識した学校経営に参画することで、本校の教育課程の充実を図る。本校の学校目標の実現に向け、職員一人一人がカリキュラム・マネジメントの視点を持って学習指導の充実に取り組む組織づくりを、職員研修等で共通理解を図りながら推進する。また、公開授業やSSH発表会等への保護者参加の増加を促すとともに学校HP及び各種通信等の充実を行うことで、本校の教育活動に対する理解を深める。さらに、天草市民センターでの中学校向け説明会等を実施するなど本校の魅力を発信する機会を設け、本校への入学希望者の増加につなげる。

(2) 学力向上

【課題】

探究型授業及びICT活用授業等の授業改善について工夫が必要である。学力向上に関する職員研修は公開授業に併せて実施できたが、研究授業等は目標の実施数に達成しておらず、職員の授業力向上にさらに取り組む必要がある。また、生徒アンケート「家庭学習時間は週1080分(1年)・1350分(2年)・1500分(3年)を超えている」生徒は50.0%と各学年の目標時間を超えた割合は低く、学習支援ツールを活用した個別最適な学びを充実させる必要がある。

【改善方策】

次年度も継続して、「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進するとともに、思考力・判断力・表現力の育成に向けて、ICTを活用しながら生徒が活発に思考を廻らし議論を行うような授業づくりに努める。また、年度当初に各学年の授業担当で授業検討会を実施し、シラバスを用いた指導計画の共有と教科横断的な視点で探究型授業等の充実を図る。シラバスをとおして職員と生徒が共通理解のもとで授業を実施し、観点別評価を行うことで学力向上につなげる。さらに、学習支援ツールの活用を推進し、主体的に学ぶ態度の育成と個別最適な学びの充実を図る。

(3) キャリア教育の充実

【課題】

自己の在り方や進路について考える機会を確保するためキャリアパスポートの活用、インターンシップの充実、生徒向けの講演会の実施について改善の必要がある。

【改善方策】

「雛鵬プラン」を活用し、進路選択及び進路決定のために高校3年間を見通したキャリア教育をさらに充実させる。進路に関するガイダンス機能とインターンシップ等の体験活動を強化し、望ましい職業観、勤労観を育み、生徒一人一人が目的意識を持って日々の活動に取り組む態度を育成する。キ

キャリアパスポート等を活用した進路LHRや面談の実施、自己の在り方や進路について考えることを目的とした講演会等の充実など、教育活動の全領域においてキャリア教育の視点をもって取り組む。

(4) 生徒指導、人権教育の推進及びいじめ防止の徹底、健康安全教育の推進

【課題】

生徒指導についてはボランティア活動の充実（生徒アンケート「私はボランティア活動によく参加している」の項目で肯定的評価が42.4%）、人権教育の推進については人権教育講演会及び職員研修の実施、いじめ防止の徹底については生徒支援委員会の活用、健康安全教育の推進については、生徒の治療率の向上と交通安全教育の充実が課題として残った。

【改善方策】

学校設定科目「天草探究」における地域課題解決に関する探究活動への取組を契機として、地域とのつながりを深めながらボランティア活動への参加を促し、社会奉仕の精神を育成する。人権教育講演会及び職員研修については、人権教育推進委員会が主体となって、本校の人権教育全体計画に則って実施し、生徒の人権尊重の精神の涵養と豊かな人間性の育成を図る。また、生徒支援委員会を生徒理解、カウンセリング、特別支援、いじめ防止対策の中心として位置付け、組織的にいじめのない安全、安心な学校づくりを目指すとともに、SNSの使い方等についても実態に応じた指導を行い、健全な心身の育成に努める。健康診断結果については、保護者への周知と治療勧告書による指示の徹底を図り、治療率向上に努める。交通安全については、生徒朝礼等での呼びかけ等により意識をさらに高め、交通違反及び交通事故0を目指す。

(5) 地域連携の推進

【課題】

学校評議員会から学校運営協議会への移行は完了したが、学校運営協議会の役割を十分に果たすための体制づくりが課題である。また、今年度取り組んだ地域との連携、高校間での連携、中高での連携に関する各事業を一過性のものではなく、継続的に取り組んでいく必要がある。

【改善方策】

コミュニティ・スクールとして、学校運営協議会において校長の運営方針の承認に加え、学校運営に関する意見及び教職員の任用に関する意見について伺うなど、一定の権限と責任をもって学校の様々な課題解決に参画する仕組みなるよう改善し、開かれた学校づくりにつなげたい。

地域商店街の活性化、天草市との連携事業、学習ボランティア等の実施により、地域や地域の小中学校との密な連携をとおして、学校の発展と地域の発展に努めていきたい。そのため、人材育成、地域活性化、ボランティア活動などの観点で地域との連携を深め、地域に信頼される学校として教育の充実を図っていきたい。